

ルックルック！

NEWS
R4.9月号

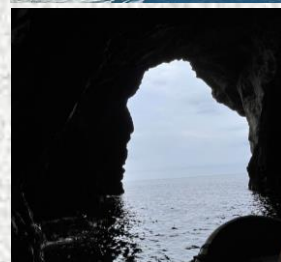
神秘の丹後ブルー「青の洞窟・愛の洞窟」

丹後のイタリアと呼ばれるほどの神秘的なブルーが目に飛び込んできます。竹野漁港から小さなボートを約15分走らせた岬の突端にその神秘のブルーは光を湛えて揺らめいていました。気の遠くなるような年月をかけて荒波が削ってきた洞窟の漆黒と海の青と光のコントラストに圧倒される素晴らしい絶景スポットです。

一丹後市民局ルックルックNEWSの
バックナンバーはこちら

丹後町内の地域動きやトピックスをお届けする

Tango 地域 news



「京丹後龍宮プロジェクト」
× とび丸タクシー

京丹後を訪れる旅人を「癒し」や「感動」でおもてなしするために、様々な丹後の地域資源を知り尽くした地元の「マイスター」が丹後ならではの体験プログラムを提供しているネットワークが「京丹後龍宮プロジェクト」。京丹後龍宮プロジェクトの名前の由来は、丹後に伝わる浦島太郎伝説と乙姫様の物語になぞらえ、京丹後を訪れた旅人に『龍宮城』に着いたつもりになって様々な体験していただき、思い出を「開けてうれし玉手箱」として持ち帰っていただきたいとの願いが込められています。

数ある体験プログラムの中でも、赤マル急上昇中なのが、今回の表紙を飾った写真。そう、とび丸タクシーが提供する「青の洞窟・愛の洞窟」を見学する海上遊覧ツアー。小さなボートで奇岩の小さな入口をくぐれば、そこにはイタリア・カプリ島の青の洞窟を彷彿とさせる神秘の光が波に揺らめいていました。みなさんも是非、地元丹後で自然の光と色に心奪われる体験をしてみてください。

問：080-2527-2558 京丹後龍宮プロジェクト

地域おこし協力隊丹後町担当の渡辺典代が、丹後町を応援する人や魅力的な場所を紹介するコーナー

丹後町な場所

「依遅ヶ尾山山頂からの景色」



弥栄町から丹後町に帰る道すがら、依遅ヶ尾の色づかい姿に心を奪われます。移ろいやすい天候もまたこの山の魅力かもしれません。

古くから信仰が深かったので、山頂には役小角（えんのおづぬ）を祀っている石室と不動尊を祀っている木造の祠があります。並びに金剛童子山、権現山、海の向こうには霊峰白山。この地には人々の平和への祈りと暮らしへの感謝が今もカタチとナマエをもって残されています。私たちは、そこから何を感じ伝え残していくのか…また山に登って思いをめぐらせませう。

丹後町の人口

	R4.8月末	前月比
0-14歳	405	0
15-64歳	2,193	△5
65歳+	2,129	△1
計	4,727	△6

掲載団体や話題、表紙の写真を大募集！

スポーツ、サークル活動など、皆さんに広く知ってほしいニュースがある団体や個人を募集します。また、表紙の写真も募集します。掲載を希望される方は、丹後市民局までご連絡をお願いします。

【連絡先】京丹後市長公室丹後市民局（TEL0772-69-0714）

※誌面の都合上、全ての希望に沿うことはできません。ご了承ください。

丹後町な人



④



⑤



③

【活動を通して思う丹後町の魅力と未来への希望】

人間は自然界から離れては生きていけない。海あり山あり里あり、本当に豊かな自然資源に恵まれた丹後町。食の豊かさ、林業・農業・漁業、食文化に関わる人たちの尊さが丹後町の魅力だと思えます。

利便性を追い求め社会が進み続けてもなお、根本となる自然界との共存バランスを無視すれば人間の暮らしは持続できなくなります。また、都会と地方がこのバランスを分離して担っていることが過疎化と食糧難を引き起こし、これからの日本全体の衣食住に大きな影を落とす。していくのではないかと思います。

地域おこし協力隊

わたなべ ふみよ

* 渡辺 典代 さん *



今回の丹後町な人は「渡辺典代」さんです。令和3年9月1日から地域おこし協力隊（丹後町担当）に着任し、今月末をもって約1年間の任期を終えられます。地域おこし協力隊としての活動を振り返っていただきました。

【都会から移住しようと思った理由】

東日本大震災の1年後から鍼灸ケアボランティアとして石巻市の仮設住宅へ何度か足を運び、地震と津波で家族、友人の家を失った方々と出会いました。当時の状況や身の上話を聞かせてもらいながら身心のケアに携わるなか、地元の野菜や昆布を使った郷土料理を振舞ってくださったことがとても印象的でした。まだ「被災者」と呼ばれていた人たちが、災害による心の傷から立ち直る姿に個人差はあ

るけれど、生まれ育った大地に感謝し海を愛する心が生きる希望に繋がっているのだと感じました。

マスメディアで観る震災と自分の目で見て感じた震災のギャップ、経済社会が描く復興の形と自然界と人類が共生するための本質的な復興のギャップ、変わりゆく時代と環境の変化に揺るぎない信念をもって行動しなければ自分を見失ってしまうような経験が私の死生観を大きく揺るがしました。

そんな時に出会った一冊の本、ひすいこたろう著「あした死ぬかもよ？」いつか全ての人に訪れる「死」を胸に、誰かが生きたくても生きられなかった今日を私はどう生きたいのか…

あれから10年、海の環境や山の環境、農作物の安全に私たちが日常生活で選ぶ日用品の安全性、人間目線の利便性から一歩身を引いて地球環境全体を思いやれる暮らしがしたくて辿り着いたのが丹後でした。



①

I・U・Jターンに拘らず10年後、20年後の衣食住を地元で支えあえる関係性を繋ぎ続けていく努力が未来への希望の道だと思っています。

今後は、ご縁を頂きました豊栄地域で暮らしていきます。丹後町の未来が明るく開けますように、微力ではありますが尽力したいと思います。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

（地域おこし協力隊 渡辺 典代）



⑥

※写真の注釈

①「あした死ぬかもよ？」ひすいこたろう著 私たちはいつか全てを失う定めにあります。それはあしたかもしれない。どう生きたいのか、答えは自分だけの中に。人生に迷ったとき読み返したくなる一冊です。丹後図書館で借りることができます。

②「宇川で暮らした平集落の景色」朝起きて、この景色を眺める至福の時間。古い歴史を持つ平八幡さんを祀る御山がいつも集落を見守っているよう。10月の祭礼にはお赤飯とお酒



②

【1年間どのような活動をしてきたか】

宇川加工所に所属させて頂き、金曜市の取り組みやイベント出店、エゴマキムチ製造、経ヶ岬灯台での清掃・販売イベント、いっとめ移動販売の同行、ジオパーク研修、海ゴミ問題のイベント参加など、活動を通して地域の方々と広く交流しました。顔なじみになるにつれ、丹後の方々の温かさに触れ、都会と地方それぞれの地域課題に実際に関わることで、目の前の事実だけではなく社会全体の課題を肌で感じる事が出来ましたね。

また、このルックルック「丹後町な人」の執筆もとても好きでした。ひとりとして同じ人生を歩んできた人はいない、それぞれが様々な経験を経て今ここで出会い、お互いの人生を重ね合わせながら未来を語り合える。そんな心地よい時間を共有させて頂き、人との出会いが一番の財産だと感じましたね。

を持つて地元の方と御山にお参りへ出かけました。地元でとれたもち米のわらで大きなしめ縄をつくり、大きな提灯と神輿で神様をお迎える儀式が今も大切に守られています。

③「毎週金曜10〜13時まで！宇川マルシェ金曜日！」宇川の常連さんから町外の方々も、手作り惣菜にスイーツ、採れた野菜に海産物を求めてたくさんの方が来てくださいます。龍谷大学の学生さんがお祭りを開催してくださり子どもたちが大はしゃぎすることも。

④「移動スーパードット」と「留ちゃん号」宇川に無くてはならない移動スーパー。日常の買い物に出ることが困難な方々の大切なライフラインです。新鮮な食材を自分の目で選んでお買物できる喜びと交流は重要。利用の多い地区では30名ほどが一度に利用されます。

⑤「宇川アクティブライフハウス」宇川の元気なお母さんたちが活躍する宇川加工所のホーム。卓球や囲碁、軽音、歴史講座など下宇川地区公民館活動の拠点としても賑わっています。もともとは保育所だった宇川アクティブライフハウス。老朽化に伴い建て替えが検討されています。未来へと引き継がれる「希望の建物」に！。住民みんなに関わって頂きたい案件です。

⑥「袖志の棚田」田植えと稲刈り、田んぼの大変さのほんの一部を体験させて頂きました。毎日の田んぼのお手入れ、本当に感謝です。いつか私もお米作りがしたい。